

# 福島潟自然情報

## レンジャー真ちゃんの観察日記

僕は4月から福島潟でレンジャーをやっています。  
一緒に潟の自然を楽しみましょう。



撮影 清水重蔵

最近、自然学習園を歩いていると、ほんの一メートル程前の草むらから、突然、キジが飛び出し、心臓が止まりそうなほど驚かされたことがあります。体の色が褐色で、枯れ草や地面の色と区別がつかず、うまくカモフラージュしているため、飛び立つまでまったく気がつきませんでした。  
キジといえば、日本の国鳥であり、桃太郎の昔話でも有名で、鮮やかな緑の胸と赤い顔、長い尾という派手なイメージがあります。しかし、実はそれはオスのキジで、メスは地味な褐色です。さて、メスのキジが飛び立った直後、数羽の少し小さい子どもたちも飛び出してきて、一瞬で二度も驚かされました。しかし、キジの親子のほうも、かなりびっくりにしたでしょう。

春にはヒバリが、初夏にはオオヨシキリやバンが子育てをしていましたが、どうやらキジの親子も自然学習園で子育てをしているようで、草の葉や実、クモや昆虫などをついばみながら歩いている姿も時々目にします。

自転車乗り入れや犬の散歩をご遠慮願っているおかげで、自然学習園では、鳥たちも安心して子育てができるでしょう。もちろん、カラスやトビなど、自然の敵には注意しなくてははいけません。うけれど。  
(ビュー福島潟レンジャー小坂)

## 福島潟干拓史 1

### 山本丈右衛門の登場

享保十五(一七三〇)年に阿賀野川が松ヶ崎で海へ切り落とされて以来、新発田藩が総力を挙げて取り組んでいた福島潟開発を、一人で請け負ったのは山本丈右衛門でした。彼は、自らの出自を次のように述べています。

「祖父は、高田藩主松平光長の家臣であつたが、後に郷士となり、一家は高田近在に住み着いた。享保年間に祖



昭和40年代の福島潟

父・父とも亡くなったため江戸に上り、松平伊豆守信綱の家臣となった。しかし、その後病氣療養のため頸城郡鉢崎村に帰った。このとき福島潟の開発を計画した。  
実際に丈右衛門が福島潟開発を幕府に願ひ出したのは、寛保二(一七四二)年八月初旬でした。しかし、このころ新発田藩も福島潟開発を計画していたため、幕府はなかなか開発の許可を出しませんでした。

そのため宝暦元(一七五二)年、再び丈右衛門は次のような開発願ひを幕府に提出しました。

「松ヶ崎掘割開削以来、新発田領内のあちこちに何万石とも計りたない開発可能な土地ができた。しかし、この土地は幕府には何の利益ももたらさず、このままにしておけば、これから十年間、潟の開発は一層進み、開発地は新発田藩のものになってしまう。」

この願書は幕府勘定方の心を大きくとらえました。福島潟の開発で年貢の増加を目指したい幕府は、宝暦四(一七五四)年潟周辺の三十三か村を幕府領とし、翌年丈右衛門に開発の許可を与えました。(続く)  
(郷土史研究家 靄間)

# 市民の声

VOICE みんなの声

VOICE



## 魅力と個性あふれるふるさとを目指して 「石動自治会はこれからのまち、 といった感じが好きです」

北原 滋之さん  
(46歳)  
石動

誰もが住みたいと思う石動自治会にと、様々な活動を行っています。それぞれが顔見知りになることから始め、自治会内にとどまらない地域交流を目指しています。

### 自由な声をお寄せください

投稿は、郵送(手紙・はがき)、来庁などの方法でもかまいません。郵送の場合は、住所、氏名、年齢、電話番号をお書きください。お寄せいただいた原稿は、紙面の都合などで、内容を変えずに一部省略・変更することがあります。ご投稿いただいた方には、粗品を進呈します。

※締め切り 毎月20日

石動に越して三年目です。昨年四月、偶然にも責任ある自治会長を仰せつかりました。それまでは、仕事、仕事の日々でした。いざ、自治会長となつて、町内を見ると、大した自治会活動もなく、連帯感の薄さを実感するばかりでした。いくら出来立ての自治会といつても、これではいけないと思ひましたね。  
子供たちが進学や就職で、この土地から離れても、また戻つて住みたくなるふるさとをイメージします。それには、今、しっかりとした地域活動と連帯感が必要です。それらを創り出すことが、今の地域の、大人たちの責任といえます。  
(「いっちゃん、ましたねえ」)そのためにも、みんなが地域を考へることから始めたいと思つています。  
今年はずで、子供会を発足させると共に、自治会初の夏祭り、民謡流しへの参加などを含め、さまざまな行事を企画してきました。  
石動自治会のこれからできるまちといった感じがとても好きです。

## 学校通信

早通中学校 発

アイデア豊富な早中



齋藤 菜々絵 さん  
中学3年生

早通中学校は四三九人の生徒が通っています。いつも明るくあいさつの良い、和やかな雰囲気のある学校です。  
学校の玄関前には、六月に整美委員会とボランティアによって植えられた花がたくさん咲いています。その他、学校をより活発にするための朝のあいさつ運動や窓ふき・落書き落とし・ロッカー掃除をする教室清掃などのボランティア活動がとて盛んです。どの企画も多くの生徒が参加しています。  
また、早中では今年初めての企画で月一回の特別朝会があります。生徒会・学級活動や学校行事を活発にさせるための朝会です。一学期は各クラスが学級目標を発表しました。どのクラスも工夫をこらした発表となりました。  
三年生の中学校生活も、あと半年です。これからも明るい早中を目指し心に残る思い出を作りたいと思います。